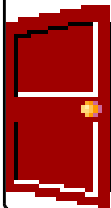


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

N o 46

桑村小学校令和5年9月14日

文責 渡邊

「教養」は自分の人生を面白くするためのツール！

この夏休みに一冊の新書を手に取りました。その図書は、『アメリカの大学生が学んでいる本物の教養』（斉藤 淳著 SBクリエイティブ株式会社 2023年1月15日）という本です。

これからの時代を生きていく私たちにとって大切なことは「教養」を身につけることであるとずっと思っていました。以前、この読書通信『読書活動への扉を開く』で『人生を面白くする本物の教養』（出口治明著 幻冬舎 2015年9月30日）を紹介しました。この本はとても面白く、勉強になったことを覚えています。そのとき「教養」について出口氏は、「教養とは、人生におけるワクワクすること、面白いことや、楽しいことを増やすためのツールです」と述べていました。そう、人生を面白くするためのツールなのです。そして、自分の意見を持つことの重要性についても述べられていました。

さて、今回手にした図書の作者である斉藤氏は「教養」をどのように捉えていたかという、「教養とは、本質的には『自分の中心』を構成する何かー人生哲学や守りたい価値観を形成する栄養となるもの」と述べています。このことは、出口氏の主張するところと似ていますね。自分の人生を豊かにするには、教養を身につけることが大切だということです。

私がこの図書で、最も「なるほどな！」と思ったところは、「知識の『生産』を体験してみる」という小見出しに書かれている文章です。「書かれたものを読んでおしまい。知識を頭に入れておしまい。このように知識を『消費』するだけでは、教養は身につけません。みなさんには、知識を『生産』するということに、ぜひチャレンジしていただきたいと思っています。」（P34）

これはとても大切なことであると思います。今年度、本校では、昨年度の読書活動を発展的に持続し、「読書体験と表現活動を柱に『豊かな感性』を育む教育活動の創造」に取り組んでいます。「読書推せん文」を各々の児童が書く取組は、まさに生産的活動なのです。

これから、「親子読書郵便」や「友達郵便」が予定されています。これらも自分のお気に入りの図書を家族や友達に絵や文章で紹介するもので、生産的活動といえます。

一人一人が読書活動に取り組み、自分の内面を見つめる行為を読書体験とし、読書を楽しむそれを通して自分の中で起こる様々な変化を自分自身が感じ、深く考え、表現活動へとつなげていくことで自分自身の存在を見つめることができるでしょう。これは、出口氏や斉藤氏が大切にするとところの「教養」の獲得と同じであると考えますがいかがでしょうか？桑っ子たちには、楽しみながら「教養」を身につけていてもらいたいと考えます。



【R4読書郵便①】



【R4読書郵便②】



【R4読書郵便③】